

## <友だちと遊ぼう！>

どの子ども、自分の家ではおもちゃを自由に使って遊んでいることと思います。一人っ子であればなおさら、電車は何台つなげてよく、ままごとの食べ物や人形も独り占めできますよね。それが、ひとたび外に出て、公園や子育てひろばなどに行くと、そうはいきません。

通所事業の『ここすき！』でも、電車を使いたいのだけれど、余っているものがないと友だちの電車にそっと手をのばすものの、「だめっ！」と拒否されてしまう場面があります。どちらも譲れないと、二人で引っ張りっこになり、互いに「じぶんがつかいたい！」と必死です。

そうした場面で、子どもは初めて自分以外にも同じ要求を持った相手がいることを知るので。それでも、大人が仲立ちし、「かして」と伝え、貸してもらった時にはホッと安心。うれしくなって、その後は分け合った電車をガタンゴトンと仲良く一緒に走らせたりします。また、友だちが楽しそうに遊んでいると、「ぼくもやってみよう」と、真似をして一緒になって遊びだし、いつのまにか二人で顔を見合わせ、ニコニコと笑い合っています。

「ぼくもつかいたい」「なんでかしてくれないの？」「うれしい！かしてもらえた」「あの子のやっていること、おもしろそう、わたしもやってみようかな」…と、同じくらいの年齢の友だちと一緒に遊ぶことで、一人で遊んでいたのでは味わえない様々な感情を実感することができるのです。



「ちょっとかして！」



「たのしそうだなあ〜」

『ここすき！』に来ている子どもたち（1〜2歳児）を見ていると、自分と性格の違う子に対して憧れのような気持ちをいだき、近づいていく姿があります。大人と同じで、自分がないものを求めるのでしょうか。また、自分と似た性格の友だちに安心感を覚えるということもあります。いずれにしても、友だちの存在って大事だなと実感します。友だちの行動や遊ぶ姿を見て魅力を感じ、「自分も同じようにやってみよう」と思ったり、困っている姿を見たら、「〇〇するんだよ〜」と教えてあげたり、あるいは友だちから優しくされたり、ということを繰り返しながら、自分も知らず知らずのうちに成長していきます。

様々な機会を利用しながら、同世代の友だちと遊ぶ経験をさせましょう。同時にお母さん（お父さん）同士も親しくなって、一緒に子育てについての話ができると良いですね。

（文 ここすき！プロジェクト保育士）



「みてみて！！」



「はい、どうぞ！」



「きゃっ、きゃっ♪」